

個・チームが意欲的に思考し、技能を高めるサッカーの授業

—「4対4」の攻防の中から、ゲームに使える技能の習得を目指して

藤本 隆弘・房前 浩二・岡本 昌規・高田 光代
藤原 宏美・岩田昌太郎・合田 大輔

本校では1982年より「生涯体育に視点をおいた授業実践」に取り組んできた。「体育の学び方を学ばせ、体育・スポーツの生活化」を目指し、「自ら学び、自ら考え」、自己を成長させていく「自己教育力」の育成をねらいとして実践してきた。今回の授業では、サッカーを通して、個やチームの課題を明らかにし、課題を解決するために意欲的に思考し、工夫する授業に取り組んだ。攻撃戦術（壁パス、オーバーラップ、スルーパス、スイッチプレー）を学習し、ゲームを楽しむために「練習（2対1）—試合（4対4）—課題練習—試合（4対4）—課題練習—試合（8対8）」というプログラムを組んだ。4対4、8対8のゲームの中で相手を意識したプレーを課題として思考し、工夫し、技能を高め、また、攻撃に対しての防御の仕方についてもグループで考え、課題をみつけ、工夫し、学ぶことができた。個・チームが課題解決のために、意欲をもって思考したり、メンバーの特長を把握したり、戦術を考えることができた授業になったと思う。

1. はじめに

学習指導要領では、球技の中で①技能の内容「チームの課題や自己の能力に応じて運動の技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。」、②態度の内容「チームにおける自己の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して練習やゲームができるようにするとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。また、練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意して練習やゲームができるようにする。」、③学び方の内容「チームの課題や自分の能力に応じた課題の解決を目指して、計画的な練習の仕方やゲームの仕方を工夫することができるようにする。」としている。本校では1982年より「生涯体育に視点をおいた授業実践」に取り組んできた。「体育の学び方を学ばせ、体育・スポーツの生活化」を目指し、「自ら学び、自ら考え」、自己を成長させていく「自己教育力」の育成をねらいとしてきた本校体育科の実践は、今回の改訂の特徴である「学び方の内容」にあてはまるものである。

2. 研究のねらい

今日、サッカーはJリーグ、ワールドカップ、オリンピックなど注目度も高く、テレビでもよく放映されるなど、生徒が最も興味を持ち、関心を抱くスポーツの1つであり、生徒は大変意欲的に取り組む。しかし、今までの授業では、キック、ドリブルなど基本的技能の練習を数時間して、その後大人数のゲームに入っていくという授業を展開したので、ゲームでは技能の低いものはディ

フェンスにまわり、ひたすら相手の攻撃を邪魔する役割を与えられ、攻撃への参加をほとんどすることなく、サッカーの醍醐味であるシュートをする機会もないということが多かった。

オランダサッカー協会は「4対4練習法はサッカーの要素—相手・味方・スペース・プレッシャー・広さ・深さ—を失うことなく試合のできる最小の形であり、ゲームのすべての技能—技術・バランス・体力・視野・意識・予想・コミュニケーション—を身につけることができる。また、4対4という人数の少なさのため選手はたえずゲームをしている状況にあり、常に広範囲にわたってプレーする可能性がでてくる。その中でもっとも重要なことは、数多くボールに触れることであり、選手はプレッシャーを感じながらくり返すことによって、技術を学び練習し仕上げていくことができる。直面した異なる状況をすばやく認識し、ボールコントロール、正しい速さ・方向のパス、ボールへのアタックができるようになる。

(The Dutch 4×4 Training Methodより)」としている。

このことは、4対4がサッカーのあらゆる要素を含み、サッカーの特性に触れるのにとっても有効であると考えられる。今回の授業では、このような考え方をもとに、誰もが積極的にボールに触れ、シュートをうつチャンスをもてるようにし、サッカーのおもしろさを経験できるように4対4のゲームを中心に学習することにした。2対1での攻撃戦術（壁パス、オーバーラップ、スルーパス、スイッチプレー）をベースにした4対4のミニゲームに取り組む中で、シュートとそれにつながるパスやドリブ

ルなどの他の技能の向上や、攻撃や防御の仕方、自分のプレーを把握しチームの中での個々の役割などもつかめてくると考えた。4対4や8対8のゲームで個々の特長を生かしたチームの作戦をたてて、ゲームを楽しむなかで、一人ひとりが課題を見つけ工夫し解決に取り組み、個・チームが高まっていけるような授業を計画・実施したいと考えた。

3. 研究の手続き

- 1) 研究の対象 広島大学附属福山高等学校
1年生男子 73名
- 2) 期間 2003年9～10月
- 3) 研究の方法

表1. 学習計画のように4対4のミニゲームを多く取り入れ、生徒一人ひとりが毎時間、学習ノートに反省・課題を記入し、個やチームの課題を明らかにしながら取り組むことによって、技能の向上やゲームの中での攻撃や防御の仕方の理解、自分のプレーを把握しチームの中での個々の役割などの把握することができ、個々の特長を生かしたチームの作戦をたてて、ゲームを楽しむことができるように授業を計画した。授業後に行ったアンケート調査から、一人ひとりが課題を見つけ工夫し解決に取り組み、自らの意欲的な思考をし、技能を高めることができる授業のあり方を検討する。

表1. 学習計画

| 時間 | 学習内容 |
|------|---------------------------|
| 1 | 学習のねらいと進め方 |
| 2～4 | 2対1の攻撃戦術とそれを生かした4対4のミニゲーム |
| 5～8 | グループの課題練習と4対4のミニゲーム |
| 9～12 | グループの課題練習と8対8のゲーム |
| 13 | 学習のまとめ |

第1時間は、学習ノート(図1)の作成から、グループ分け(出席番号順に10～11名ずつ)、グループに分かれて係分担をした後、学習目標、学習方法を示した。第2～4時間は、2対1の攻撃戦術(壁パス・オーバーラップ・スルーパス・スイッチプレー)を説明、グループに分かれ練習した後、4対4のミニゲームをした。第5～8時間は、グループ毎に課題練習をした後、4対4のミニゲームをした。第9～12時間は、グループ毎に課題練習をした後、8対8のゲームをした。第13時間は事後アンケートを行った。

4年男子サッカー 学習ノート

() 班 () 組 () 番
名前 ()

| 係 | 名前 |
|------|----|
| 班長 | |
| 副班長 | |
| 準備係 | |
| 整理係 | |
| ノート係 | |
| 用具係 | |
| 用具係 | |
| 用具係 | |
| ライン係 | |
| ライン係 | |
| ライン係 | |

-1-

図1-1 学習ノート

個人自発的ドリブル

1. リフティング(1分) もも・足を使って
2. ボールコントロールからドリブル 自分でボールを投げ上げ、コントロールして
10回 5mドリブル
3. 3人組でヘディング一人10球

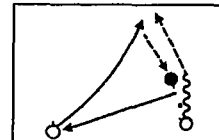
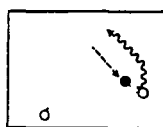
AがB・C交互にボールを投げ、Aにヘディングで返す。交替しながら行う。慣れてきたら、三角形になり、Aから来たボールをCに返すようにする。

3人組でのキック練習(2分)

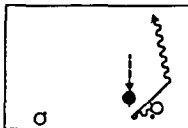
- ①1.0m離れて三角形をつくり、インサイド・インステップキックでパスをする。
- ②2.0m離れてインフロントキックでパスをする。
- ③最初は、コントロールしてキックする。慣れてきたらダイレクトでキックする。
- ④カラーコーンを相手と見て、スペースを作って行う。
- ⑤逆方向へも行う。

2対1の攻撃戦術

- ドリブル 走る方向 → パス ○攻撃 ●守備
1. 相手を引きつける
 - ①ドリブルで突破できるときは、ドリブルで相手を放く。
 - ②ドリブル突破と見せかけ相手を引きつけて壁パスで突破する。



③味方にパスをする動作をして、守備側をそちらに引きつけ、ドリブルで放く。



-4-

図1-4 学習ノート

- 単元目標
 - 「2対1」での攻撃戦術をベースにした4対4のミニゲームに取り組むことにより、個人やチームの課題を明確にし、計画を立て、練習やゲームに意欲的に取り組むことができるようにする。
 - 「教え合い学び合い」学習を活用し、一人ひとりが課題を見つけ工夫し解決に取り組む、個・チームの技量を高める。
 - 4対4や8対8のゲームで個々の特長を生かしたチームの作戦をたて、ゲームを楽しむことができるようにする。
 - ルールを守り、お互いを尊重し安全に公正な態度で遊ぶことができるようにする。
- 単元計画

| 時間 | 学習内容 |
|----|-----------------------|
| 1 | オリエンテーション、役割分担、ルール |
| 2 | 個人的技能、2対1、ミニゲーム(4対4) |
| 3 | 個人的技能、2対1、ミニゲーム(4対4) |
| 4 | 個人的技能、2対1、ミニゲーム(4対4) |
| 5 | 個人的技能、課題練習、ミニゲーム(4対4) |
| 6 | 個人的技能、課題練習、ミニゲーム(4対4) |
| 7 | 個人的技能、課題練習、ミニゲーム(4対4) |
| 8 | 個人的技能、課題練習、ミニゲーム(4対4) |
| 9 | 個人的技能、課題練習、ゲーム(8対8) |
| 10 | 個人的技能、課題練習、ゲーム(8対8) |
| 11 | 個人的技能、課題練習、ゲーム(8対8) |
| 12 | 個人的技能、課題練習、ゲーム(8対8) |

技術の土台となる「基本動作の理解」

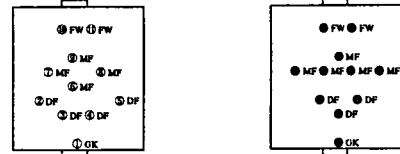
- 周囲を見る・事前に考える(良い身体の向き・有効な視野の確保・判断)
 - 見：自分のところにボールがない時
 - 見：ボールと自分の周囲の選手(相手と味方)のポジショニング・動き。
 - 考える：自分のところにボールがきたらどうプレーするか、具体的なイメージをもつ。
- ボールに寄る
 - 原則として、パスはボールに寄って受ける。→ボールをコントロールする時間が生まれる。
- パスアンドゴー：「パスした足が動く第1歩」
 - 「ゴー」の目的
 - サポートのためのランニング
 - 攻撃的なサポートのためのランニング
 - スペースをつくるためのランニング
- マークの原則
 - ボールとマーク相手を同時に見ることができる角度をとる。
 - サッガーは、2つの場面(攻撃と守備)しかない。
 - 「ピンチ」「チャンス」を理解する。

-2-

図1-2 学習ノート

システム・ポジションと役割

- A) 4-4-2 (ディフェンス重視) B) 3-5-2 (攻撃型)
ゾーンディフェンス マンツーマンディフェンス



| A | B | ポジション | 守備の役割 | 攻撃の役割 |
|---|---|-------------|------------------------------|--|
| ① | ● | ゴールキーパー | ○シュートの阻止とクロスボールの処理 | ○ゴールの起点 ・スローイング・キック |
| ② | ⑤ | サイドバック | ○自分のサイドを守る。 | ○積極的に攻撃に参加する。 ・スローインをあげる。 ・クロスを送る。 |
| ● | ● | ストッパー | ○ストライカーをマークする。 | ○素早く安全な味方につなぐ。 |
| ③ | ④ | センターバック | ○ストライカーをマークする。 | ○中盤に運出して組み立てに参加する。 |
| ● | ● | リベロ (スイーパー) | ○守備ライン全体をカバーする。 | ○攻撃のスタートの組み立てに参加する。 |
| ● | ● | ウイングバック | ○自分のサイドを守る。 | ○サイドからの攻撃の担い手となり、正確なセンタリングを送る。 |
| ⑥ | ⑦ | 守備的 MF | ○センターバックと協力して守備の中央に強力な組織を作る。 | ○DFラインからのボールを受ける。 |
| ⑧ | ⑨ | サイドの MF | ○自分のサイドのスペースをつぶす。 | ○サイドを突破する。 |
| ⑩ | ⑪ | 攻撃的 MF | ○相手の攻撃を遅らせる。 | ○攻撃の仕上げのリーダーとなる。 |
| ⑫ | ⑬ | ストライカー | ○横パスのインターセプトを狙う。 | ○シュートを念頭に置いてプレーする。 ○「くさび」のパスを受ける。 |

-3-

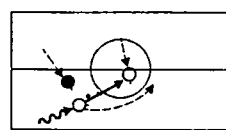
図1-3 学習ノート

2. 壁パス：味方を壁のように使うパスで前進する。

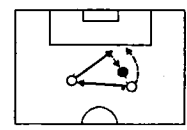
- ①サイドからの突破 ②中央突破



- ③中盤での組み立て

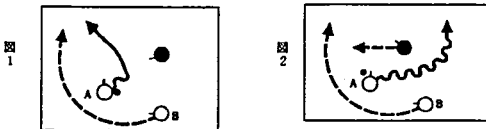


- ④相手をひきつける



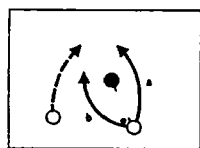
- ・相手がタックルにきたとき
- ・相手がこないとき、ドリブルで相手ひきつけて

3. オーバーラップ：ボールをキープしている味方を後方から追い抜いて前へ出るプレー



- Bがオーバーラップし、Aがパスを送る。(図1)
DFがBの動きに反応したら、Aはドリブル突破を狙う。(図2)

4. スルーパス：守備の間をついたパスを出して味方を守備組織の裏側に走らせるプレー

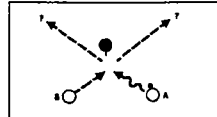


- 狙いたいのはaのパスである。DFの背後を通るとDFはターンして、FWやボールから一瞬目を離さなければならないからである。

-5-

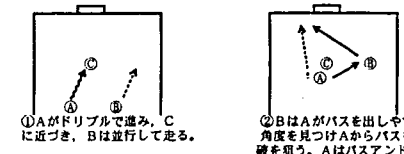
図1-5 学習ノート

5. スイッチプレー：ボールをもっている選手にもっていない選手が寄り、短くボールを受けてそれまでは違う方向にボールをもって出るプレー



- Aがドリブルする方向にBが走り込んだ場合、Aがそのまま歩いていくか、Bにスイッチするか迷うことになる。

壁パスの練習法



- ①Aがドリブルで進み、Cに近づくと、Bは立行して走る。

- ②BはAがパスを出しやすいタイミングと角度を見つければAからパスを受け、壁パス突破を狙う。Aはパスアンドゴー

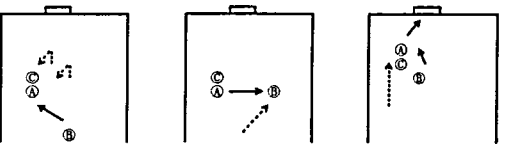
オーバーラップの練習法



- ①Aがドリブルで前に進みCをひきつける。

- ②BはAの背後を通ってAを追い抜く。Aはタイミングを見て、良い長さ長さのパスを出す。

スルーパスの練習法



- ①CにマークされたAがフェイントをかけCをふりきったところにBがパスを送る。

- ②パスを受けたAはダイレクトにワンタックルして、前に出たBにリターンパスを送る。

- ③Aはパスを出したらリターンし、前のスペースに走り出す。そのタイミングを見てBがスルーパスを出し、受けたAがシュートする。

-6-

図1-6 学習ノート

スイッチプレーの練習法
(1) タイミングをつかみ、トップスピードでのスイッチ

①Aはハーフスピードのドリブルで進み、トップスピードで走ってきたBに短くパス。

②Bはスピードを落とさずにこのボールをもってドリブル。

(2) パスでのスイッチプレー

①Aが中心に走り込んだときに、Bがパスを送り、走り込む。(パスアンドゴー)

②Bはボールをワンコントロールし、Aの進行方向にパス。そのまま対角線上に走り込む。

図1-7 学習ノート

年月日 () 月 () 日 () 曜 天候 () 場所 ()

| | | | | | | | | | | | | |
|-------|---|-------|--------|-------|------------|-------|------------|-------|--------|-------|--------|-------|
| 時間 | 0 | 5 | 10 | 15 | 20 | 25 | 30 | 35 | 40 | 45 | 50 | |
| 学習内容 | 個人の技能 集団的技術 ゲーム その他 | | | | | | | | | | | |
| 学習内容 | 試合前・本時の計画確認 準備運動・整理運動 個人の技能ドリル 整理運動 本時の反省と次時の計画 片づけ・解散 | | | | | | | | | | | |
| 自己評価 | 個人への取り組みの達成度 | A・B・C | 技術の達成度 | A・B・C | チームの理解の達成度 | A・B・C | チームの理解の達成度 | A・B・C | 安全への配慮 | A・B・C | 安全への配慮 | A・B・C |
| 教師の所見 | | | | | | | | | | | | |

図1-8 学習ノート

月 日 () 自チーム () 席
ポジション&システム 対戦相手 () 席

| ポジション | 名前 | 交替 | 交替 |
|-------|-----|-----|-----|
| 8 () | [] | [] | [] |
| 7 () | [] | [] | [] |
| 6 () | [] | [] | [] |
| 5 () | [] | [] | [] |
| 4 () | [] | [] | [] |
| 3 () | [] | [] | [] |
| 2 () | [] | [] | [] |
| 1 GK | [] | [] | [] |

結果 前半 (-) 後半 (-) 合計 (-)

| | |
|--------|-----|
| 主審 [] | [] |
| 副審 [] | [] |
| 副審 [] | [] |

よかった人・プレー

| | |
|-------|--------|
| オフェンス | ディフェンス |
| [] | [] |

反省・次時への課題

-9-

図1-9 学習ノート

4対4は20×40mのコートにハンドボールゴールを使用し、グループ内でゲームを行った。8対8は48×70mのコートで正規のサッカーゴールを用い、グループ対抗とした。

それぞれの授業は、グラウンドや用具の準備をして、準備運動、ノートにより課題の確認、活動、活動終了後、本時の反省と次時の課題を話し合い、整理運動、片づけをして終了した。活動は30分～35分程度であった。

4. 結果と考察

◎攻撃戦術の学習とプログラム

2対1の攻撃戦術、グループでの課題練習、4対4のミニゲーム、8対8のゲームを展開するというプログラムを組んだ。

まずは2対1の攻撃戦術で、壁パス、オーバーラップ、スルーパス、スイッチプレーの方法を学習し、4対4のミニゲームで使えるということをめざした。

2対1の攻撃戦術の学習については図2のように「スイッチプレー、オーバーラップなど知らないことを知ることと練習することができた」「細かいパスの出し方、つなぎ方を知ることができた」「個人的技能だけでなく戦術も学べて、一生懸命プレーできたと思う」と、戦術を学ぶことが、新しい経験であったり、それぞれにとって、学習意欲を高めることになったと思う。

今回の授業で良かったと思うところ

○課題・工夫

- ・試合などで自分たちのチームの中の弱点(自分の課題)を見つけて、それを直そうと努力した。チームでできるといのが楽しかった。
 - ・乗り気でなかったがみんなで練習してみると、色々知らなかったことも露呈し、楽しくなってきた。その練習の中で自分の欠点であったパスを改善していこうと決め、パス練習を重点的に行ったことがよかったと思う。試合でも自分の思った方向にパスが出せて満足している。
 - ・試合回数が増えるにつれ、パス・トラップが正確になったと実感できた。試合は負けたくない試合ができるようになった。4対4ではスルーパスやスイッチプレーが使えて面白かった。8対8では本格的にディフェンスがいて攻めづらかった、ディフェンスも難しく何度か抜かれたが途中からはそういうことも少なくなった。
 - ・お互いの動きの個性を生かしたプレーができた。チームで戦うことの難しさと面白さがわかった。準備を自分たちでする割合が大きかった分、プレーに一体感が持てた。
 - ・相手の配置を気にして相手のいないところに走り込みパスを受けることができた。相手がトラップミスしたボールや、ゆるく出したパスを走り込んでかつとしてそのままゴールできた。
 - ・ボールを積極的においかけることができた。攻める際に空いたスペースに入ってボールを受け、壁パスを成功させることができた。
 - ・試合の前で練習(スイッチプレー、壁パスなど)はゲームをするのに役立ったと思う。
 - ・個人技も集団技能を練習できて良かった。チームの課題を見つけてそれに対して練習できたのが良かった。2対1などまだまだ使えてないけど少しずつだけでも利用できてよかったと思う。
 - ・4対4によって8対8の基礎が作られて、やりやすかった。パス回しが良くなった。練習内容も様々に取り入れることができて良かった。
 - ・みんなで協力してラインを引いたり、道具を用意したり、自分たちで考えた練習ができたりと自主的にできた。4対4、8対8ができて楽しかった。ゲームの後、話し合う機会があったので反省や次のゲームへの課題が見つかった。
 - ・ゲーム形式が多くて、ゲームをやる中でみんなどんどん上手になっていったと思う。ノートを作ることでみんなが課題も理解して効果的な練習ができた。チームそれぞれの課題について練習できた。
 - ・毎時間、試合があったのがよかった。練習の段階で試合のために何を練習したらよいかということや、やる気にもつながってきたと思う。
 - ・積極的に取り組み、8対8のゲームでは責任を持ってチームのために頑張れた。一回一回の授業に課題を持って取り組み、その課題に向けて意識的に取り組んだ。用具係でボールの出し入れなども積極的に行った。
- ### ○個人的技能
- ・技術が向上したと思ったこと。みんな楽しくできたのでよかったと思う。
 - ・リフティングの回数が増えた。トラップができるようになった。連係プレーができるようになった。
 - ・パスがうまくなった。
 - ・サッカーを楽しめた。徐々にうまくなっていくのが体験でき嬉しかった。
 - ・とても楽しかった。FWで点も少しとれて良かった。
 - ・中学の時、積極的に攻撃に参加していなかったけど今回はゴール前にも良く出て、積極的に攻撃しようとすることができた。
 - ・楽しかった。トラップがうまくなったので良かった。フィールドも経験できたので良かった。キーパーも基礎的なことを再び学習できて良かった。
 - ・中学校の時よりもボールを扱う技術がかなり向上させることができた。ゲームでも積極的にプレーができシュート

も多くできた。

- ・練習をちゃんとこなして試合で成果が見られたところ。楽しんでできたところ。
 - ・今まで以上に好きになった。ミニゲームでゴールを決めたときとても嬉しかった。集団プレーの大切さを学んだ。
 - ・一人ひとりにシュートチャンスがあったし、ボールによくさわられた。試合の時間も結構長かったし、楽しかった。
 - ・ちょっとはパスの仕方がわかったところ
 - ・お互いに声を出せていたのでプレーしやすかった。練習したことが生かされた。
 - ・久々にサッカーをして楽しかった。
 - ・のびのびと試合ができた。人を倒してもファールにあまりならなかったので動きやすかった。
 - ・楽しくサッカーができて、みんなもサッカーの楽しさがわかってくれたとおもいます。
- ### ○集団的技能
- ・楽しかったし、スイッチプレー、オーバーラップなど知らないことを知ることができたこと、それを練習できたこと。
 - ・よく動き、チームとの連係プレーを学ぶことができた。みんなで力を合わせないと勝つことができないとわかった。
 - ・サッカーの細かいパスの出し方・つなぎ方を知ることができた。技術が上がったと思う。チームで支え合っていた。
 - ・楽しむことができた。プレーの時周りが見え、よく動けるようになった。
 - ・同じチームでずっとやってきたので、練習の時のコンビネーションが試合中でもそのまま使うことができた。チーム練習をやっていくうちにお互いの意志が合うようになって、パスもつながるようになったし得点も決めれるようになった。
 - ・壁パスやオーバーラップなど様々な戦術を習うことができた。ゲームも多くて練習したことをすぐに使えるのでよかった。
 - ・みんなでディフェンスの統一とか、戦術をみんなで考えたりサッカーを通して意識が高くなった。ポジション別の考え方、動き方、技術の向上など色々な面でプラスになった。
 - ・ポジションの役割を学べた。パスをする人でなく受ける人の移動がとても重要なんだということがわかった。後半になってくるとパスの連携が良くなってきたことが良かった。
- ### ○楽しむことができた
- ・楽しめた。サッカーを理解することができた。
 - ・楽しかった。チームプレーの中では個を出し過ぎても良くなく、出さなすぎるのもいけないことが改めてわかった。オフサイドの意味が理解できた。
 - ・ほとんどの人たちが声を出し頑張ってプレーしていたとたとおもう。技術もだいぶうまくなったし、とても楽しかった。
 - ・楽しかった。チームワークなど協調性ができた。
 - ・チームのみんなと楽しくできたところ。
- ### ○チーム・仲間に関わること
- ・最後に勝てたこと。メンバー交代をうまくできたこと。
 - ・みんなが主体的にやってよかった。チーム内での協力がやはり大切だと思う。チームワークもうまれてよかった。
 - ・最初はチーム全体の動きもかみ合わなかったけど徐々に合うようになってきた。ほとんどの人が8対8の時自分の役割を理解して実行していたと思う。また、チームのムードも良くなっていった。
 - ・チームで闘うことでチームワークが良くなったこと。ゲームでもチームワークが働き全勝したこと。
 - ・よかった。チームメイトとの交流も(多少は)増えた。
 - ・練習や試合を通してボールになれることができた。チームワークも向上した。チームでの自分の責任や係分担の重要性を身につけることができた。
 - ・面白さがわかってうまくなったと思う。チームワークで

図2-1 今回の授業で良かったと思うところ、今回の授業でよくなかったと思うところ、改善すべき点

2対1での学習は、次のような結果をもたらした。『4対4の中で2対1で練習したことが使えましたか』については表2のように「使えた」は壁パス57.5%、オーバーラップ37.0%、スルーパス54.8%、スイッチプレー6.8%であった。「使おうとしたが成功しなかった」まで含めると壁パス82.2%、オーバーラップ57.5%、スルーパス78.1%、スイッチプレー24.6%であった。また、『8対8の中で2対1で練習したことが使えましたか』については「使えた」は壁パス52.1%、オーバーラップ42.5%、スルーパス46.6%、スイッチプレー11.0%であった。「使おうとしたが成功しなかった」まで含めると壁パス80.9%、オーバーラップ58.9%、スルーパス72.6%、スイッチプレー24.7%であった。4対4では壁パス、スルーパスは約8割、オーバーラップは約6割、スイッチプレー約4分の1が、8対8では壁パスは約8割、オーバーラップは約6割、スルーパスは約7割、スイッチプレー約4分の1が使おうと試したことになる。スイッチプレーについては、生徒の反省の中で「よくわからなかった」と書いていたり、「使えた」割合が低いなど、難しかったようではあるが、4対4や8対8の中でもこれらの攻撃戦術を積極的によく使い、成功したと言える。

表2 4対4、8対8で2対1で練習したことが使えたましたか

| | | 壁パス | オーバーラップ | スルーパス | スイッチプレー |
|-----|----------------|-------|---------|-------|---------|
| 4対4 | 使えた | 57.5% | 37.0% | 54.8% | 6.8% |
| | 使おうとしたが成功しなかった | 24.7% | 20.5% | 23.3% | 17.8% |
| | 合計 | 82.2% | 57.5% | 78.1% | 24.6% |
| 8対8 | 使えた | 52.1% | 42.5% | 46.6% | 11.0% |
| | 使おうとしたが成功しなかった | 28.8% | 16.4% | 26.0% | 13.7% |
| | 合計 | 80.9% | 58.9% | 72.6% | 24.7% |

2対1で練習したことが、4対4をする中で『生徒のよかったと思うところ(図2)』にあるように「壁パスやオーバーラップなど様々な戦術を習うことができた。ゲームも多くて練習したことをすぐに使えるのでよかった。」「2対1などまだまだ使えてないけど少しずつだけでも利用できてよかったと思う。」「スルーパスやスイッチプレーが使えて面白かった。」というように、学習したことをすぐに、くり返して、試して、4対4のゲームの中で攻撃戦術を使えたことについて述べている。また、グループの課題練習でも2対2、3対2を計画し、その中で2対1でやってきたスルーパスやオーバーラップなどのプレーができるように練習し、使おうとしていた。

8対8では「いきなり8対8だと自分の役割が見えてこないが、ちゃんと4対4で確認した後だったので、とても動きやすかったと思う。」「4対4によって8対8の基礎が作られて、やりやすかった。パス回しが良くなった。」「8対8では本格的にディフェンスがいて攻めづらかった、ディフェンスも難しく何度か抜かれたが途中からはそういうことも少なくなった。」「試合の前で練習(スイッチプレー、壁パスなど)はゲームをするのに役立ったと思う。」と2対1で学習したことを意識しながら、練習してきたことがわかる。

そのことが、「積極的に取り組み、8対8のゲームでは責任を持ってチームのために頑張れた。」「みんなでディフェンスの統一などの戦術をみんなで考えたりサッカーを通して意識が高くなった。」「ポジション別の考え方、動き方、技術の向上など色々な面でプラスになった。」「ポジションの役割を学べた。パスをする人でなく受ける人の移動がとても重要なんだということがわかった。後半になってくるとパスの連携が良くなってきたことが良かった。」「8対8ではポジションも細かく決めて実践的な授業となったのがよかったと思う。」というようにゲームのため戦術を思考し、ポジションを決定できるようになった。

生徒は、練習(2対1)―試合(4対4)―課題練習―試合(4対4)―課題練習―試合(8対8)というプログラムの中で、攻撃戦術(壁パス、オーバーラップ、スルーパス、スイッチプレー)を個人・チームの課題として取り組み、ゲームに発揮しようとしてきた、その過程の中で考え、工夫し、学習が深まったと思う。

◎課題・工夫されたこと

主体的に課題を見つけ、お互いの技能を高めるために、グループで活動した。グループでの話し合いが進み、『4対4をする中から出てきた課題と課題解決』のため工夫したことは表3の通りである。また、5時間目より取り組んだ『グループの課題練習のねらいと成果』は表4の通りである。

出てきた課題は、表3にあるように「パスをもっと的確に出すこと」「敵がいるときのパス」「周りをよく見て、パスのもらいやすいところへ移動すること」「ボール回しの速さが必要」「攻守の切り換え」「簡単に抜かれないようにする」「攻めと守りのバランスが悪い」「声かけが足りない」といった戦術にかかわる課題であり、味方に対するものや敵(相手)とのかわりを対象にしたものである。生徒がそれらに取り組んだ成果として「試合の中で相手をよく見てパスを出すことができるようになる。」「DFとの間合いを考えてパスが出せるようになったと思う。」「楽しくパス回しができ、落ち着いてできる

ようになった。」「全体的に試合の流れを見ることができた。」「ディフェンスで無理に行かないようになって、抜かれることがなくなった。」など、常に相手を意識した練習をし、相手とのかけひきの中で工夫してきたことがわかる。生徒は2対1で学習した壁パス、オーバーラップ、スルーパス、スイッチプレーをパターンにこだわるのではなく、ゲームの状況を想定しながら、4対4、8対8のゲームの中で相手を意識して、思考し、工夫し、技能を高めようとした成果であり、このことは今回の授業のねらったところである。

今回の授業では攻撃戦術を中心に学習した。防御の仕方については学習ノートで「守りが遅れる」ことに対して「ボールが味方にあるのか、敵にあるのか」とコメントしたり、活動場面では「判断を早く」ぐらいのアドバイスにとどめたが、「ひとりがボールをもった人になったら、周りを見てパスをカットする。」「それぞれの役割を決めた。」「誰をマークするか決めた。」「みんなで意識して、速く戻るようにした。」「相手ボールになったら、必ず戻る。」「ボールを持った人には必ずついて、みんなで下がる。」「相手を遅らせる。」「抜かれてもすぐ追いかける。」と述べているように、守りについても工夫し課題をもって活動していることがうかがえる。

表3 4対4で出てきた課題と課題解決に行ったこと

| 課題 | 課題解決に行ったこと |
|------------------------------|---|
| ・パスをもっと的確に出すこと | ・パス回おそいしの練習で、状況の把握と判断できるようにした ・お互いに声をかけあうようにした。 |
| ・パスが中央に集中すること | ・積極的に動くこと ・速くてゴロのボールにする ・角度を考えてパスができるようにした |
| ・敵がいるときのパス | ・もらう方が積極的に動く |
| ・みんながボールのところに集中してしまう | ・声をかけあい、周りを見ることが出来るようにした ・前に蹴るのでなく意識してサイドの人へパスを出した |
| ・サイドから展開する | ・4対1でよく練習した |
| ・周りをよく見て、パスのもらいやすいところへ移動すること | ・スペースを作ったり、声を出した |
| ・ボール回しの速さが必要 | ・トラップの置く位置、パスの正確さ、速さが必要になるので、4対1をしたが練習と試合では感覚が異なった |
| ・コントロールのミス | ・パス練習を多くした |
| ・バウンドボールの処理 | ・処理が遅れると危ないので、早めに押さえるかクリアする |

| | |
|-----------------------------------|--|
| ・みんなで攻めて、ボールをとられた後の戻りが遅い(攻守の切り換え) | ・みんなで意識して、速く戻るようにした ・ひとりは少し下がっておく ・相手ボールになったら、必ず戻る ・ボールをもった人には必ずついて、みんなで下がる |
| ・簡単に抜かれないようにする | ・相手を遅らせる ・抜かれてもすぐ追いかける ・ひとりがボールをもった人になったら、周りを見てパスをカットする |
| ・ディフェンスの仕方 | ・守備を意識する ・周りをよく見て、状況を把握するようにした ・それぞれの役割を決めた。 ・誰をマークするか決めた。 ・声を出して、みんなが多く動けるようにした |
| ・攻撃に人数をかけていた | ・4対1の練習をして、仲間とコミュニケーションをとるようにした |
| ・攻めと守りのバランスが悪い | |
| ・周りの攻撃参加 | |
| ・声かけが足りない | |

表4 グループ毎の「課題練習」のねらいと成果

| | 課題練習 | ねらい | 成果 |
|-------|-----------|---|---|
| グループA | 4対2でのパス回し | ・相手(敵)と仲間(味方)をよく見て正確なパスを出す ・スルーパスが出せるようになる。 ・ディフェンスのやり方 ・対人感覚をつかむ ・トラップの正確性 | ・試合の中で相手をよく見てパスを出すことができるようになる。 ・ディフェンスのやり方がわかった。 |
| グループB | 4対2 | ・DFの動きを読み、取られない方向にパスをする、DFはパスの方向を読む | ・DFが上手くなった、パスに勢いがでた |
| | 4対1 | ・トラップからのパス、回りをよく見てスペースを見つける | ・ダイレクトで蹴って浮くこともあったが、回りをよく見：・キ；たりDFとの間合いを考えてパスが出せるようになったと思う。 |
| | 3対2 | ・シュートまで上手くもっていく | ・試合にいかせていない |
| グループC | 4対1 | ・パスをしっかり繋ぐ | ・パス・トラップが上達した |
| | 4対2 | ・パスを速く正確に出す ・相手のディフェンスを崩す ・パス回しとタイミング | ・うまくなった ・練習ではできて、試合では難しかった |

| | | | |
|-------|---------------|--|---|
| | 5対5 | <ul style="list-style-type: none"> パスを繋いでシュートまでもっていく | <ul style="list-style-type: none"> 実践的な練習が試合につながった |
| | 3対2 | <ul style="list-style-type: none"> オフェンスの動き、ディフェンス力をきたえる 相手をぬいてシュートまでもっていく 実践になれるため | <ul style="list-style-type: none"> 動きがスムーズになり、パスもつながり、ディフェンスに粘りがでた サイドに開き、センターリングをあげる事ができた |
| グループD | ロングキック | <ul style="list-style-type: none"> 正確なロングボールを蹴る 相手の頭を越すボールを蹴る | <ul style="list-style-type: none"> トラップが上手になった |
| | 4対1 | <ul style="list-style-type: none"> 狭い中でトラップ・パスが求められ、落ち着いてプレーできる ディフェンスの仕方 | <ul style="list-style-type: none"> ディフェンスで無理に行かないようになって、抜かれることがなくなった 上手くパスカットできるようになった パスをもらいやすく動くことができた パスが上手くなった 楽しくパス回しができ、落ち着いてできるようになった |
| グループE | 3人でパス | <ul style="list-style-type: none"> ねらった場所へのパスだし パスをもらうときのファーストタッチの強化 | <ul style="list-style-type: none"> パスを出すとき受けるときの感じがつかめた |
| | 3対2 | <ul style="list-style-type: none"> 適切な判断をできる様にし周りを見る目を強化する マークマンを振り切れるようになる | <ul style="list-style-type: none"> スルーパスなどが試合でも使えた |
| | 3対3 | <ul style="list-style-type: none"> 状況に合わせて適切な動きができるようになる | <ul style="list-style-type: none"> 全体的に試合の流れを見ることができた |
| | ロングパス・ロングシュート | <ul style="list-style-type: none"> 強く正確なキックをすること 遠いところからのシュート | <ul style="list-style-type: none"> 試合で縦にパスが出せた キック力やシュートの成功率が上がった キックの正確性が上がった |
| | 2+1対2 | <ul style="list-style-type: none"> トップのボールの受け方やフォローを利用し、そこから展開すること パスを使って相手をぬく パスをどのように出し、どのように受けるか実践形式で知る 攻撃力と防御力をお互い高めあう 互いの動きを見る | <ul style="list-style-type: none"> 後ろに戻すということができ、安全な攻撃ができた 接近戦でのボールさばきができるようになった パスを繋ぐことができた ディフェンスはマークの方法やパスカット、オフェンスはオーバーラップのかけ方、トラップの仕方などがわかった |

| | | | |
|-------|-----------|---|---|
| グループF | 3人組でロングパス | <ul style="list-style-type: none"> ロングパスを大きく正確に蹴る | <ul style="list-style-type: none"> ディフェンスで大きくクリアできるようになった |
| | 4対2 | <ul style="list-style-type: none"> 短いパスを敵がいてもつなげられるようになる パスを正確に、トラップをしっかりできるようにする スペースを見つけてパスをそこでもらったり、出したりできるようになった | <ul style="list-style-type: none"> 前のほうで繋いでチャンスを作ることができるようになった パスもトラップも上達した、試合でも使えた 相手が見えるようになった 試合で守備の時、スペースを埋めることに役立った 少し落ち着いてパスが出せるようになった 2人が協力してパスをカットできるようになった |
| | 2対2 | <ul style="list-style-type: none"> 状況に応じて、壁パスやオーバーラップなどを使えるようにする | <ul style="list-style-type: none"> やるタイミングや状況が少しわかった |
| グループG | ドリブル練習 | <ul style="list-style-type: none"> ボールを離さないように素早くドリブルをする | <ul style="list-style-type: none"> 小回りができるようになった |
| | 4対1 | <ul style="list-style-type: none"> ディフェンスにとられないようにパスを回す | <ul style="list-style-type: none"> ディフェンスの動きとどちらにパスを出したらいいか判断がつくようになった 意識的に取り組み、パスの精度も上がった |

◎お互いの長所を把握し役割を考えること

8対8の試合では、事前にチームでポジション、システム、作戦（オフェンス・ディフェンス）について、試合後には、試合で良かったプレー・人、次時への課題を話し合いながら進めた（図1）。授業後のアンケートの「それぞれが監督になって選手の特長を考え、作戦を立てよう（表5）」の結果（1グループのみ抽出）から、例えば、Iについてはその長所をグループのほぼ全員がキック力、気合いがあることを認めてGKをまかせられると判断し、自分もそのように思っている。Eは足が速く、パスもでき、シュートも決められることがFWかMFとして起用すべきことを周囲も自らも考えている。Bは自分の評価以上に周りは長所を捉え、プレー・役割を期待している。「良かったと思うところ（図2）」では、「チームの弱点を見つけ直そうとしたこと」「自分の役割を見つけることにつながった」「ポジションの役割を学べた。パスをする人でなく受ける人の移動がとても重要なんだということがわかった」「ほとんどの人が8対8の時自分の役割を理解して実行していたと思う」と述べているように、メンバーのそれぞれの特長を考え、ポジション、ディフェンス・オフェンスの作戦を考えることができるようになった。それは、授業（2対1、課題練習、ミニゲーム）を通して個やグループの課題を考え、取り組み、8対8

表5 それぞれが監督になって選手の特長を考え、作戦を立てよう(グループCのみ抜粋)

| | A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | K |
|--------|-------------------------|--------------------|----------------------------|------------------------|-----------------------------------|------------------------|-----------------------|------------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-------------------------|
| A | MF 落ち着きがある | FW サッカーが得意 | MF パスが正確、攻撃力もあり | DF パスが上手なので前に渡せる | DF ドリブル突破を防げる、ボールキープができる | FW ボールコントロールが上手い | FW 攻められる | FW 突破力があり、キープ力も高い | MF 運係プレーの構成力 | FW DFの抜け方、シュートの確 | FW 個人的技能が高い |
| B | DF 落ち着きがある | DF 下手 | DF ボールを追いかけられる姿勢、冷静 | DF 相手につける、ボールを見ている | DF 消極的、何もしない | DF 相手をマークする | DF 特になし | DF ボールのカット | DF 冷静 | DF 水際でのディフェンスがとても良い | DF ボールを見ている |
| C | DF 判断力が高い、しっかり守ってくれる | DF カット、クリアが上手い | DF ボールへの執着心、すばしこさ | DF 小回りがきく | DF ドリブル突破させない、クリアできる | DF ボールが来る場所にいてクリアする | DF クリアする | DF 守備のときよく動く | DF ボールに対する執着心 | MF 兼早い動きでシュートが的確 | DF よくボールを追いかけクリアをする |
| D | DF 背が高く、冷静 | DF 背が高い | DF 長身をいかしたDF、ドリブル突破 | MF パスカットとFWへのパス | MF 縦パスが上手い、大きくりアできる | DF マーク、クリアがよい | DF クリアする | MF 突破力が高い | DF キック力、突破力 | MF シュートの威力がとてすごい | |
| E | FW ゴール前で動きが早い | MF 上手い | FW 足が速い、ドリブル突破ができる | MF 足が速い | MF 足が速い、パスカットが得意 | FW 決定力、シュートが上手い | MF パスできる | FW シュートをよく決める | MF 足の速さ、キープ力 | MF スウィッチプレーでのしごき合いがすごい | MF いつも攻めたがっている |
| F | DF しっかり走れる | DF 積極的にする | DF パスカット後の積極さ | DF ボールを奪うのが上手い | DF カットしたボールをすぐにパスにつなげる | DF ボールを中に入れてほしい | DF 特になし | DF オーバードライブの時も動きが速い | DF ボールに対する執着心 | DF 運動量の豊富さで繊細にプレーする | DF 結構上手いのでまかせられる |
| G | FW シュート力がある | FW サッカーが得意 | FW ボールコントロールが上手い、決定力もある | FW 一番上手で得点力がある | MF ドリブル突破が得意 | MF ボールコントロールがよい | FW 攻められる | MF センタリングがきれいで自分でめいける | FW ボールのキープ力 | FW フェイントのかけ方がとても上手い | FW 個人的技能が高い |
| H | MF パス精度が高い | MF 足が速い | DF 決定的なパス、正確なボールコントロール | DF 上手 | DF パスカット、ドリブル突破を防げる、ボールキープができる | MF 攻守ともにパスランスがよい | DF クリアする | DF 攻撃も参加 | MF 攻撃・防御ともに参加できる | | MF 攻めも守りもできる |
| I | GK 気合いがある、キック力がある | GK キック力が強い、キープ力 | GK キープ力、キック力 | GK 威圧感がある | GK 飛び出しがよい、キック力がある | GK キック力がある | GK キック力がある | GK 翼のキック力と体のでかさ | GK キック力、体のでかさ | GK ボールに対する反射神経がすごい | GK がむしゃらにボールに突っ込んでいく |
| J | DF 冷静さがある | DF 下手 | DF ねばり強い、ムードメーカー | DF ボールを奪いにいく意欲がある | DF ドリブルを減速させる | DF 相手の攻撃を遅らせる | DF 特になし | DF ボールのカット | DF ボールのカット | DF 強張ってボールに食らいつく | DF 強張ってボールに食らいつく |
| K | DF サイド攻撃を防いでくれる | MF 積極的 | MF ロングパスが上手い | DF パスが上手なので前に渡せる | DF ドリブル突破を防げる | MF 攻守のバランスがよい | MF パスできる | FW 攻撃力の高さ | DF ボールのカット | DF 壁パスでのタイミングがよい | |
| DF面の作戦 | 3-2-2 | 3-2-2 | 3-2-2 | 4-2-1 | 4-2-1 | 3-2-2 | 3-2-2 | 3-2-2 | 3-3-1 | 3-2-2 | 3-2-2 |
| | サイドバックが上がり、中からも攻める | 全員で守って、全員で攻める | ミドルシュートをねらう | ボールをとって前へパスしてFW、MFで攻める | サイドから上げていきFWへパス、FW2人とMFの1人で攻める | サイドの両ウイングを使い広く攻める | パスカットのためボールを追う | それぞれの特性をいかし、兼早く多角的な攻撃 | 2つのFWでの連携したプレーでの得点を目指す | 右と左で上手い人がいるので右へ左へ流れて単調にならない | |
| DF面の作戦 | サイドのスペースをMFが上手にカバーする | ねばり強く決定的なパスを出す | 4人のDFで完璧な守り | DF4人でしっかり守る、MFの2人も戻る | DF3人とMFの1人で守るだけサイドで処理、前線からのプレス | とにかくクリアする余裕があればパスをする | ラインの上げ下げでオフサイドをねらい前線へ | 中央に入らせたくないマークチェッカー、大のパスをつなぎ攻めの足がかり | オフフェンスとゴールを結んだ線上に配置できるようにする | 中心にクリアできず人配置しカッとする | |

のために話し合い、メンバーの特長の把握ができるようになったからであると思う。自分の特長を知り、お互いの特長を理解し、チームの戦術を考えることも、今回の授業で生徒は十分に思考しながらやってきたと思う。

◎グループでの活動

「良かったと思うところ(図2)」にみられるように、「自分たちで考える授業が斬新でよかった」「みんなで計画を立てて実行したり、反省したりすることがよかった」など、グループで考え、話し合うことが協力したり、自分の長所を生かしたり、みんなで楽しみ、学ぶことになった。グループで進めた学習はそうした良い面もあるが、「良くなかったところ・改善すべき点(図2)」にみられるように、はじめは消極的な生徒がいて楽しくなかったり、話し合いが進まない、まとまりがないと感じた生徒もいるようである。しかし、ゲームをしたり、その反省をしたりする中でお互いの理解がすすみ、少しずつコミュニケーションが図れるようになった。その結果、「パスの連携が良くなってきたことが良かった」「みんなでディフェンスの統一とか、戦術をみんなで考えたりサッカーを通して意識が高くなった」「ポジション別の考え方、動き方、技術の向上など色々な面でプラスになった」のように試合内容に変化があらわれてきた。これらのことは今までになかった関わりが経験できたといった面をもたらした。

また、「準備に時間がかかった」「もっとはやくできればよかった」「協力してやればよかった」という気づきが非常に多かった。このことは、今後の学習活動の運営を考えたり、課題を持つ意識を育てるということに関してはプラスに働くものと思う、こうしたことに気づくことも『自ら学び、自ら考え』ることができたということになると思う。

5. まとめと今後の課題

今回は『自ら学び、自ら考え』る力を育てるためにサッカーの攻撃戦術を、4対4のミニゲームを中心に学習する中で、意欲的に思考し、工夫できる授業を考えた。

壁パス、オーバーラップ、スルーパス、スイッチプレーの攻撃戦術を、練習(2対1)―試合(4対4)―課題練習―試合(4対4)―課題練習―試合(8対8)というプログラムの中で、個人・チームの課題として繰り返し取り組み、ゲームで必要な攻撃戦術として取り入れる中で、生徒は、意欲的に思考し工夫した。

課題練習では常に相手を意識した練習をし、相手とのかけひきの中で工夫してきた。ゲームの状況を想定しながら、4対4、8対8のゲームの中で相手を意識したプレーを課題として思考し、工夫し、技能を高めようとし

たことは今回の授業のねらったところである。また、今回の授業では攻撃戦術を中心にやってきたが、防御の仕方についても相手の攻撃に対してグループで考え、課題を見つけ、練習した。

授業を通して、ポジションとその役割やメンバーの特長を考えさせたことによって、他のメンバーを理解し、チームの戦術を考え、自分のプレーを知り、それぞれの特長をいかした作戦を立てることができるようになったと思う。

グループで活動したことについては、意欲的な思考につながり、お互いを理解し、コミュニケーションを図ることができた反面、「準備に時間がかかった」「もっとはやくできればよかった」「協力してやればよかった」という気づきが非常に多く、グループで学習活動を運営することは、難しかったようである。今後の学習活動を考えると、グループで主体的に活動するという意識を育てることに限っては、プラスに働くものと思う、こうしたことに気づくことも『自ら学び、自ら考え』ることにつながると思う。

今回の実践で得られた成果と残された課題をもとに、今後も課題を明らかにし、課題を解決するために意欲的に思考し、工夫する授業をめざした研究実践を積み重ねようと思う。

参考文献

- 1) 横浜マリノス編著
Jリーグをめざす! SOCCERサッカー(戦術編)
池田書店 2003. 4. 25
- 2) オランダサッカー協会編著
オランダのサッカー選手育成プログラム(ジュニア/ユース編)
大修館書店 2003. 10. 10
- 3) オランダサッカー協会作成ビデオ
The Dutch 4×4 Training Method
- 4) 杉山重利他
新学習指導要領による高等学校体育の授業下巻
大修館書店 2001. 4. 1
- 5) 文部省
高等学校指導要領解説保健体育編 1998. 12. 28
- 6) 岡本昌規他
生きる力を育む体育授業
―一人ひとりが主体的に取り組むバスケットボール―
広島大学附属福山中高等学校研究紀要第41巻 2001. 3